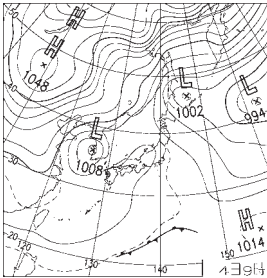


日々の天気図

— No. 96

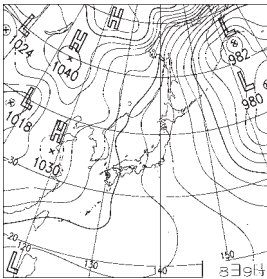
2010年1月

- 1日～2日、冬型気圧配置により、岩手県宮古市川井35.3m/s、山形県酒田市飛鳥34.2m/sの最大瞬間風速、福島県桜枝64cmの日降雪量。
- 13日～14日、冬型気圧配置により、北陸を中心に大雪、新潟県津南85cm、十日町83cmの日降雪量、佐渡市相川40m/sの最大瞬間風速。
(気象庁予報部予報課)



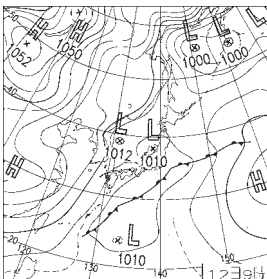
4日(月)西から天気下り坂

冬型の気圧配置は緩み、西～東日本は日中晴れるが、日本海の低気圧や本州南岸の前線の通過に伴い、夕方以降西から雨。九州は最低気温が平年より3～6℃低い厳しい冷え込み。



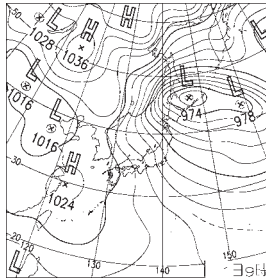
8日(金)寒中の寒さ続く

最高気温は、南西諸島及び近畿を除く西日本で最も寒い時期を下回り、鹿児島市で平年比-5.8℃の7.2℃。甲府市で初雪、新潟県津南で積雪の深さ200cm。



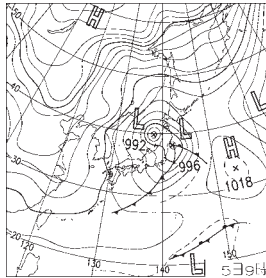
12日(火)東京で初雪

本州南岸の前線や日本海の低気圧の影響で全国的に雨や雪。関東甲信では気温が低く、雨から雪に変わった所が多く、東京では昼過ぎにはみぞれとなって初雪を観測。



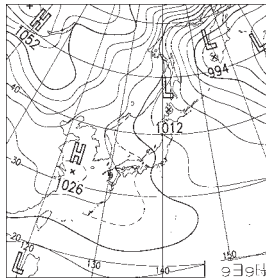
1日(金)強い冬型続く

千島近海で低気圧が発達し、強い冬型の気圧配置が継続。西～北日本の日本海側で暴風、大雪、高波。北海道では高潮も。太平洋側では晴れ、各地で初日の出が見られた。



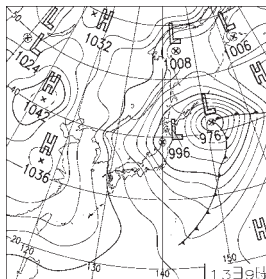
5日(火)梅も咲く寒の入り

三陸沖の低気圧が発達し、西～北日本の日本海側で大荒れ。北海道えりも岬で最大瞬間風速40.2m/s。寒冷前線の通過により、伊豆諸島でわか雨。松山市でウメ開花。



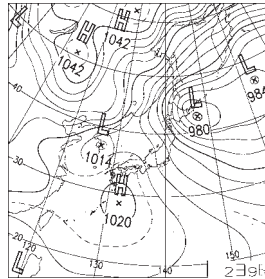
9日(土)弱い冬型が継続

北日本や本州日本海側は雪や雨。太平洋側は空気の乾燥した冬晴れ。北日本の日中の寒さは一段落、最高気温は全国でほぼ平年並に。沖繩県宮古島市、広島市でツバキ開花。



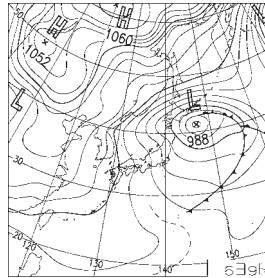
13日(水)各地で強風被害

日本付近は冬型の気圧配置が強まり全国的に風が強く、新潟県佐渡市相川で最大瞬間風速40m/s。九州各地で降雪、最深積雪は長崎市9cm、鹿児島市5cm、宮崎市で初雪。



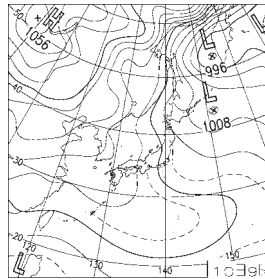
2日(土)北日本中心の冬型へ

移動性高気圧が日本の南へ進み、西から冬型の気圧配置が弱まった。北陸～北日本では引き続き冬型の気圧配置となり日本海側中心に荒れ模様。沖繩県多良間空港で最高気温24.2℃。



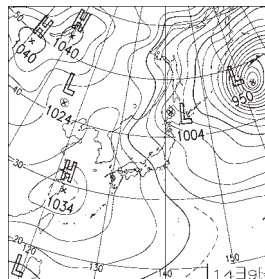
6日(水)北日本で大荒れ

三陸沖の発達した低気圧により、北日本で大荒れ。北日本太平洋側で大雪となり、北海道北見市留辺苫町で日降雪量55cm。北陸でも大雪。本州太平洋側では冬晴れ続く。



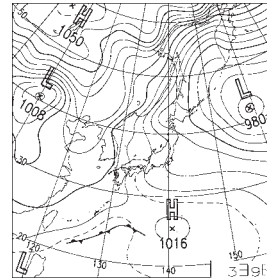
10日(日)西から冬型弱まる

西日本に高気圧が張り出し、冬型の気圧配置が弱まり晴れ間も。東～北日本では日本海側の降雪も弱まった。南西諸島では湿った空気が流入し雲の多い天気時々雨も。



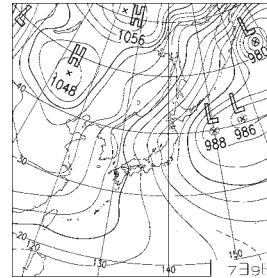
14日(木)北陸中心に大雪

西から冬型の気圧配置が緩み、西日本の雪は弱まったが、北陸中心に大雪続く。新潟県十日町で12時までの24時間降雪量127cm。最高気温は、北海道を除き平年より3～5℃低い。



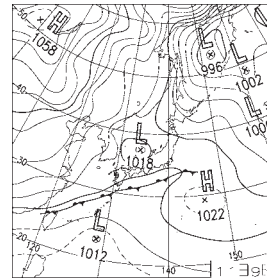
3日(日)北陸を中心に降雪続く

日本海側では北陸までは雪、それ以西では雨。東北太平洋側の一部で雪。南西諸島は午前中雨。他は晴れや曇り。最高気温は北陸や東北で平年より低めだが北海道では3月並の所も。



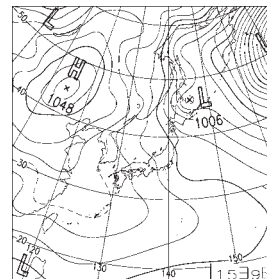
7日(木)冬型持続

冬型の気圧配置が続き、中国～北日本の日本海側では雪や雨、太平洋側は晴れや曇り。沖縄は曇りや雨。北海道は最低気温が3月上旬～4月中旬並、松江市でひょう。



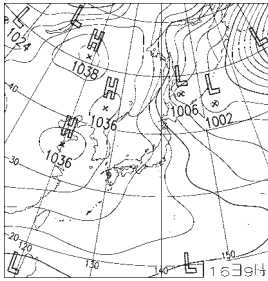
11日(月)穏やかな成人の日

日本海の低気圧が東に進み、北陸～東北日本海側の一部では雨や雪の所もあるが、晴れ間広がる。本州南岸の前線の影響で太平洋側は曇り。関東では気温が上がらず、寒い一日に。



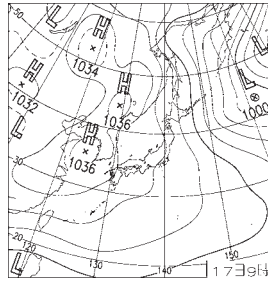
15日(金)東京で冬日

冬型の気圧配置が続き、北陸から北日本の日本海側は大雪の所も。太平洋側では晴れて空気乾燥。気温は全国的に真冬並の所が多く、東京の最低気温は-0.3℃と2年ぶりの冬日。



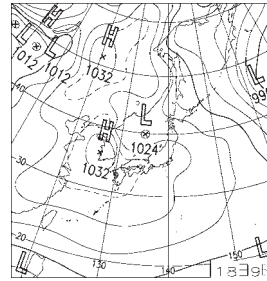
16日(土)冬型弱まる

上空の寒気は次第に日本の東に抜けて、冬型の気圧配置が弱まり日本海側の降雪も弱まる。北海道東部の冷え込み厳しく、北海道陸別の最低気温は-28.9℃。



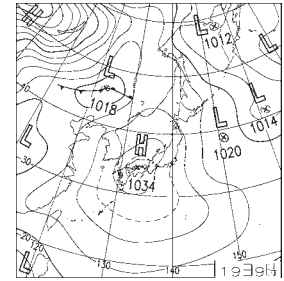
17日(日)北海道では大雪も

日本付近は西から高気圧に次第に覆われ冬型の気圧配置緩む。日本海側の雪も次第に止みだしたが、北海道の一部では大雪の所も。全国的に朝は冷え込んだが、概ね穏やかな一日。



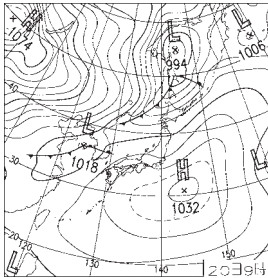
18日(月)西日本 寒さとらぐ

北日本の日本海側と北陸では雪や雨、その他は概ね晴れ。西日本では最高気温が3月上旬～下旬並となり、鹿児島市で17.3℃。沖縄県宮古島市でヒカンザクラ開花。



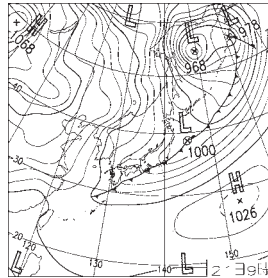
19日(火)全国的に晴れて暖か

本州付近は移動性高気圧に覆われ広く晴れ。暖気が流れ込み西日本～東北で日中気温が上昇、最高気温は軒並み3月中旬～4月中旬並。東京、千葉県銚子でウメ開花。



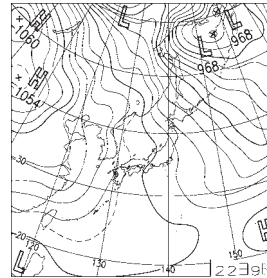
20日(水)大寒に記録的な暖かさ

移動性高気圧が東に進み、暖気が流れ込む。最高気温は全国的に平年より5℃以上高く、沖縄では竹富町波照間で26℃など島しょ部で夏日。1月の日最高気温の記録更新多数。



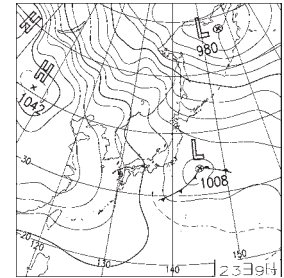
21日(木)北海道に冬戻る

前線が本州を通過し、全国的に雨や雪。関東は昨日の暖気が残り、今日も記録的な暖かさ。北日本には寒気が流れ込む。北海道日本海側で最高気温が前日より10℃前後低下。



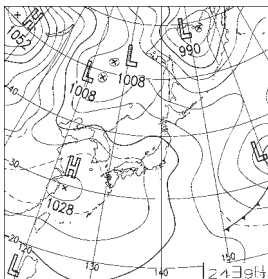
22日(金)網走 流水初日

冬型の気圧配置となり北海道網走市で平年より2日遅く流水初日。九州～北海道の太平洋側で概ね晴れ。日本海側では北陸を除き雪か曇り。鹿児島県奄美市でヒカンザクラ開花。



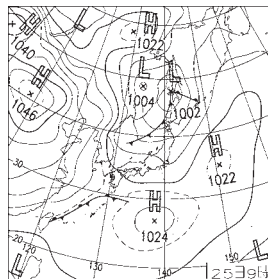
23日(土)西日本 寒中の寒さ

冬型が持続し、日本海側は雪や雨。太平洋側は晴れたが南西諸島や九州西部は曇り。西日本の最高気温は平年比2～4℃低く、最も寒い時期を下回る。関東では3月上旬並の所も。



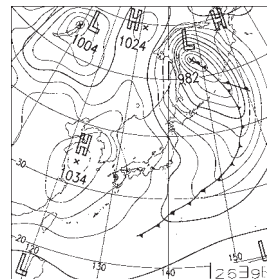
24日(日)南高北低の気圧配置

高気圧が大陸から日本の南に進み、北日本の日本海側は曇り、所々雨や雪。その他は概ね晴れ。最高気温は、北海道や東日本の太平洋側で3月上旬～下旬並に。



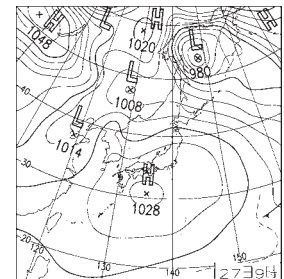
25日(月)北日本 雨の暖かい朝

寒冷前線が北日本を通過。低気圧が日本の南海上に東に進み、東日本の太平洋側を除き全国的に雨で、北日本の一部で雪。大分市、下関市、松江市でウメ開花。



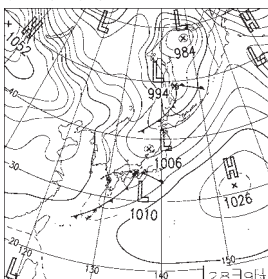
26日(火)北海道で猛吹雪

オホーツク海で低気圧が発達。北海道は強い冬型となり、日本海側では暴風雪。本州日本海側でも波が高い。佐賀市、前橋市でウメ開花。沖縄県南大東村でヒカンザクラ開花。



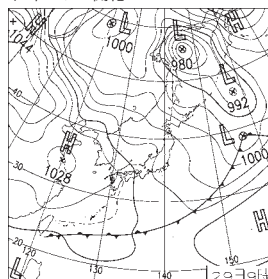
27日(水)日本の南海上の高気圧

北日本の日本海側で雨や雪。その他は日本の南海上の高気圧に覆われ概ね晴れて気温が上がり、最高気温は3月中旬～下旬並。名古屋市でウメ開花。宮崎市ではヒバリ初鳴。



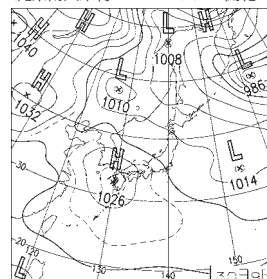
28日(木)日本列島 暖かい朝

日本列島は気圧の谷に入り西から雨、通過後は急速に天気回復。全国的に気温が高く最高・最低気温共に3月～4月並。最高気温は仙台市で平年より10.5℃高い15.1℃の4月中旬並。



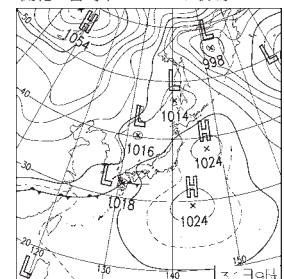
29日(金)北海道 真冬に逆戻り

日本付近は再び冬型の気圧配置。西日本は広く晴れたが、北陸～北海道の日本海側は雪。太平洋側の千葉県、茨城県にもわか雨や雷雨。北海道の最高気温は、前日より6～8℃も低い。



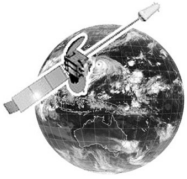
30日(土)奈良市でウメ開花

移動性高気圧に覆われて沖繩～関東は概ね晴れ。湿った空気が流入した先島諸島は雨。弱い冬型の北陸や北日本では雨や雪。関東以西は最高気温が3月上旬～下旬並。



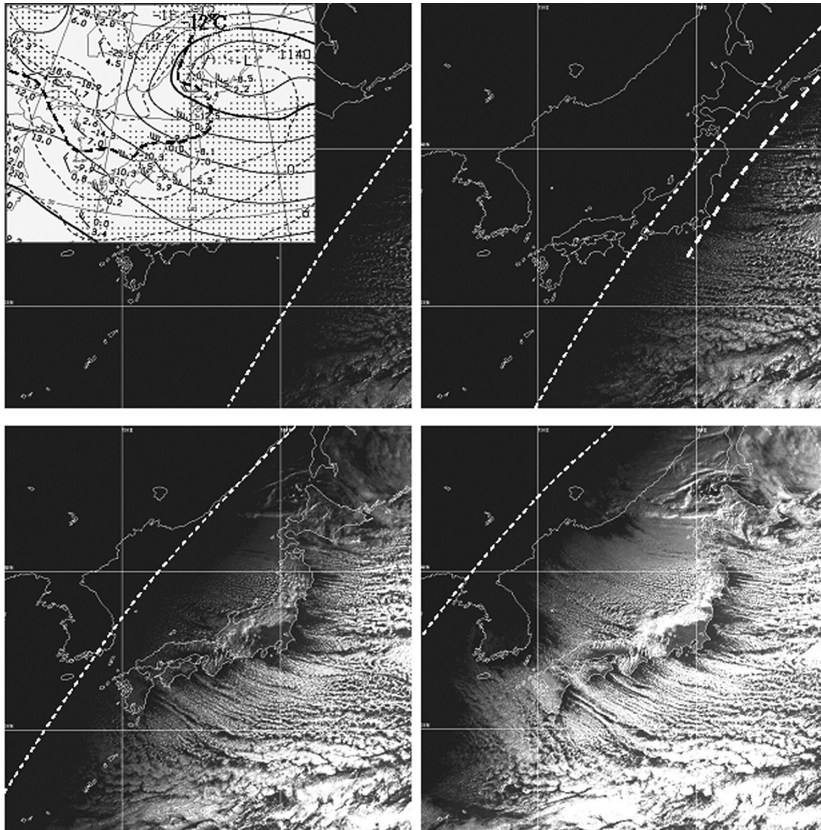
31日(日)天気は西から下り坂

九州の西海上に低気圧が発生、本州の南岸を東に進む。太平洋側を中心に雨。鹿児島県南さつま市加世田で22mm/1hなど九州南部で強く降る。北日本の日本海側では雪。



今月のひまわり画像—2010年1月

2010年の初日の出



第1図 2010年1月1日の可視画像。日本付近の撮像時刻は、左上：6時35分前後、右上：7時2分前後、左下：7時35分前後、右下：8時2分前後。時刻は日本時間。図中の細い点線はおおよその昼夜の境界線、右上の図中の太い点線は6時46分頃の日の出線を示す。左上隅は同日9時の850hPa高層天気図（実線は等高度線（60m毎）、点線は等温線（6°C毎））。

2010年の年が明けた。第1図は、初日の出の時刻前後に撮影された日本付近の可視画像である。冬は地軸の北極側が太陽と反対方向に向いているため、日の出時における昼夜の境界線（図中の細い点線）が図のように東側に傾いている。元日は冬至から10日ほどしか経過していないため、この境界線の傾きが大きい。離島や山頂を除き、日本で一番早く初日の出が見られる場所は房総半島の犬吠埼であることが、この図の可視画像からも理解できる。

さて、今年の元日は日本付近で強い冬型の気圧配置となった。第1図の850hPa高層天気図では、大雪の

目安となる -12°C の下層寒気が北海道西部から山陰沖に流れ込み、可視画像では強い寒気に伴う筋状の対流雲が日本海を覆っている。対流雲の一部は太平洋側にも流れ出し、東海地方などに雪をもたらした。このように、今年の元旦の日本列島は日本海側や太平洋側の一部で厚い雲に覆われていたが、よく晴れた関東平野など太平洋側の多くの地域では、初日の出が見られたようである。皆さんの所ではいかがであっただろうか。

（気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規）